

2011年度決算の概要

2012年4月27日
住友金属工業株式会社

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

本資料には、新日本製鐵株式会社および住友金属工業株式会社間の経営統合の成否およびその結果にかかる「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本資料における記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた両社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しています。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示される両社または両社のうちいずれか一社（または統合後のグループ）の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。両社は、本資料の日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、今後の日本国内における公表および米国証券取引委員会への届出において両社（または統合後のグループ）の行う開示をご参照ください。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) 日本国内外の経済情勢。
- (2) 鋼材需給、原材料価格、為替相場の変動。
- (3) 借入金、社債等の金利の変動、その他金融市場の変動。
- (4) 有価証券等の保有資産（年金資産を含む）価値の変動。
- (5) 事業活動にかかる法令その他規制（環境規制を含む）の変更。
- (6) 海外の主要市場における関税引き上げ、輸入規制等。
- (7) 災害、事故等に起因する事業活動の停止、制約等。
- (8) 経営統合の詳細について当事者すべてが満足する合意に至ることができないことその他本件取引が実施できないこと。
- (9) 統合後のグループにおいてシナジーや統合効果の実現に困難が伴うこと。

本資料中、「粗鋼生産量」「鋼材販売量」「鋼材平均価格」と記載しているものは、(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津、(株)住金鋼鉄和歌山を含んだ数値となっております。なお、当社と(株)住友金属小倉、(株)住友金属直江津は平成24年1月1日に合併しており、本資料中で「棒鋼・線材カンパニー」「ステンレス・チタン事業本部他」と標記した平成24年3月期第3四半期までの数値は、それぞれ合併前の「(株)住友金属小倉」、「(株)住友金属直江津他」の数値となっております。

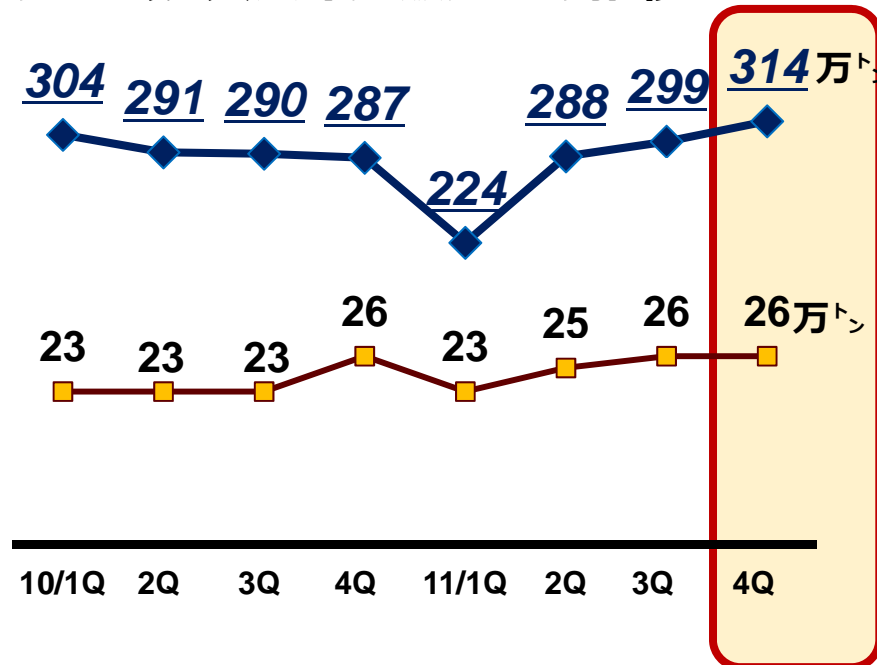
本資料中のEBITDAは、営業利益+減価償却費（有形）で算定しております。

11年度決算ハイライト

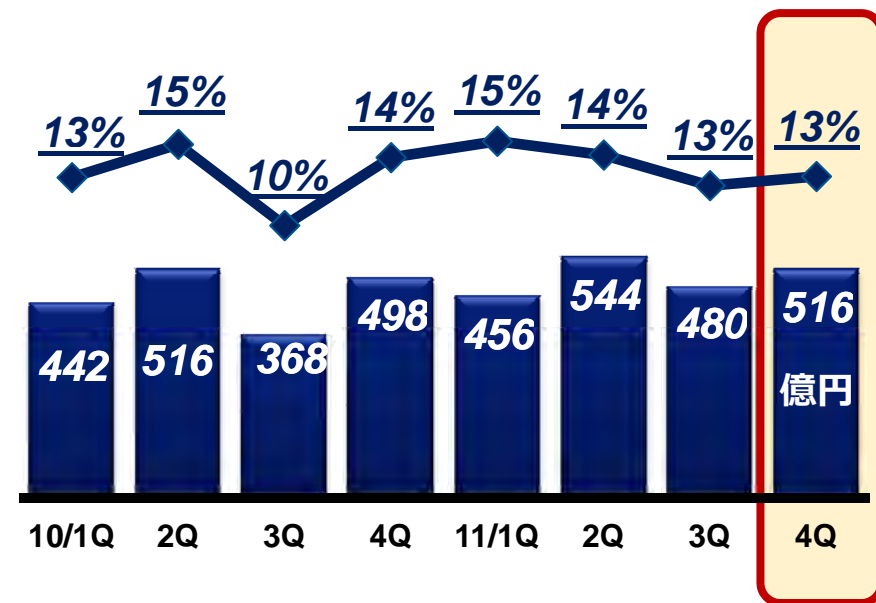
	2011年度 (前年度比)
● 売上高	14,733億円 (709億円)
● 営業利益	768億円 (205億円)
● 経常利益	608億円 (267億円)
● 当期損失	△ 537億円 (△466億円)
● EBITDA	1,997億円 (171億円)

- 震災影響、タイ洪水、円高、市況品価格低迷等の環境悪化はあったが、リカバリープランによるコスト改善上積みや差別化製品の好調さでカバーし、営業利益は前年度比205億円の増益。
- 有価証券の減損とSUMCO持分法損失の影響で当期損益は△466億円の悪化。

全社販売量と
シームレスパイプ販売量の推移



四半期別EBITDAと
EBITDAマージン推移



12年度見通し

経営環境の見通し

- 世界の鉄鋼需要は緩やかに回復
- 当社の得意とするエネルギー向け需要は成長を継続
- 一般鋼材は中国景気減速の影響を受け、需給見通しは不透明
- 原材料価格は高止まりの状況が継続

当社の対応

リカバリープランも含めたコスト合理化を推進すると共に、販売価格改善に注力

業績見通しについては、現在お客様と価格の交渉中であり、現時点では、合理的な算定が困難。算定が可能となった時点で速やかに開示する。

11年度決算実績

11年度決算概要

6

億円	10年度	11年度						増減		
		1Q	2Q	3Q	^{2/2} 見通し	4Q	^{2/2} 見通し	11年度	10→11	3Q→4Q
売上高	14,024	3,068	3,853	3,836	[4,060]	3,974	[14,800]	14,733	709	138
営業利益	563	168	244	164	[135]	190	[700]	768	205	26
経常利益	340	190	223	151	[△10]	42	[550]	608	267	△109
特別損益	△620	△143	△797	△88	[△110]	△91	[△1140]	△1,120	△500	△2
法人税等 少数株主損益	208	△14	218	△115	[△60]	△112	[40]	△25	△233	3
当期純利益	△71	32	△356	△52	[△180]	△161	[△550]	△537	△466	△108
EPS(円)	△1.54	0.70	△7.69	△1.14	[△3.88]	△3.48	[△11.87]	△11.61	△10.07	△2.34
EBITDA	1,825	456	544	480	[470]	516	[1,950]	1,997	171	36
為替レート (円/\$)	86	82	78	77	[80]	79	[79]	79	7円高	2円安

11年度 販売量等の実績

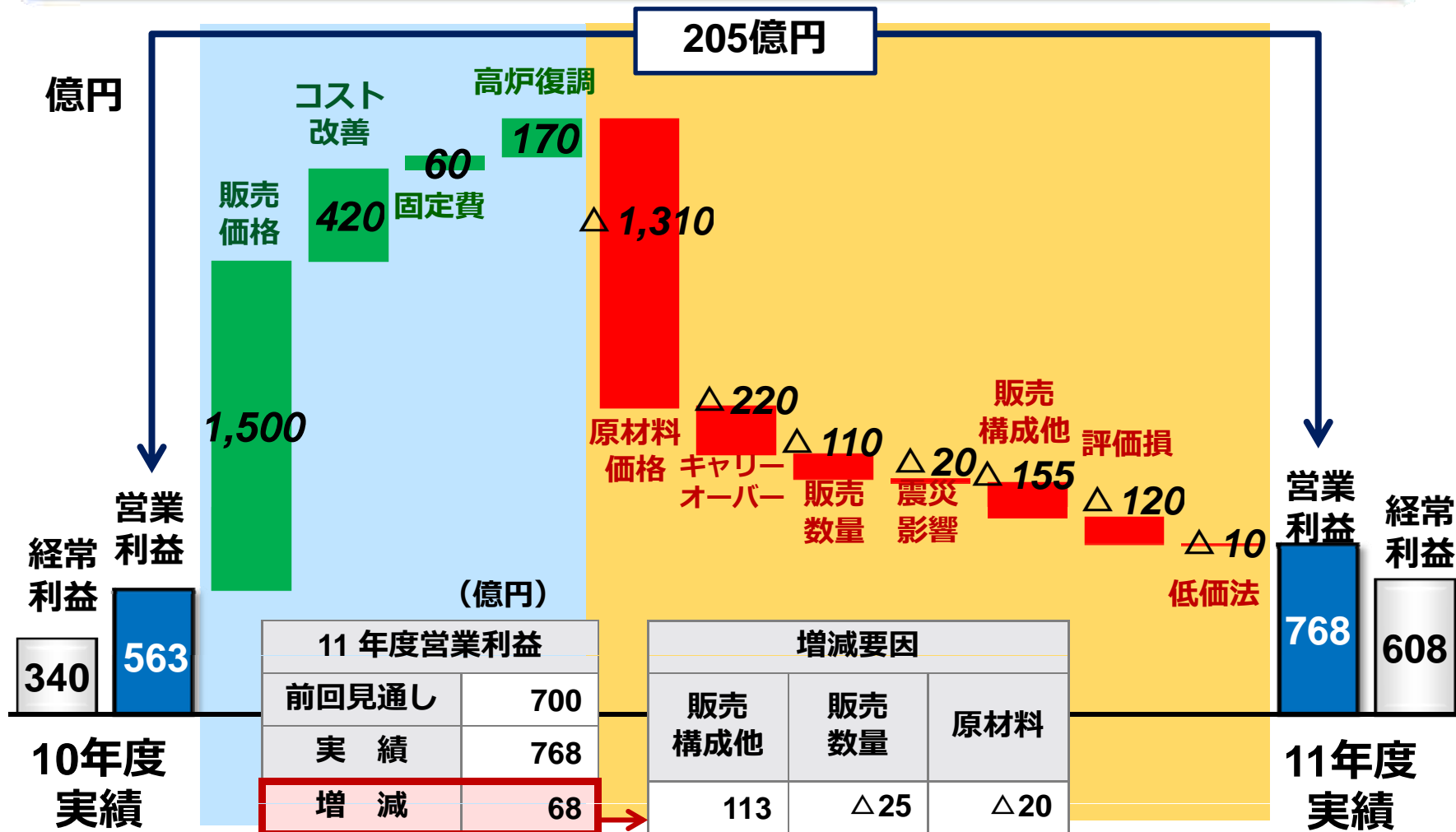
販売数量は、上期は震災影響から減産となったが、下期は高レベルで推移
販売価格は、原材料価格の変動を概ねフォローした推移

	10年度		11年度				〔2/2 見通し〕	11年度	年度 増減	
	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q				
為替レート (円/\$)	82	86	82	78	77	79	[79]	79	7円高	
粗鋼生産量 (万トン)	313	1,290	277	334	325	336	[1,274]	1,272	△18	
鋼材販売量 (万トン)	287	1,172	224	288	299	314	[1,138]	1,124	△48	
シームレスパイプ 販売量(万トン)	26	96	23	25	26	26	[101]	99	3	
鋼材 平均単価 (千円/トン)	国内	104.7	101.5	113.2	113.6	108.2	105.2	[110]	109.6	8.1
	輸出	90.6	86.3	96.6	99.5	96.4	93.6	[96]	96.4	10.1
	平均	97.9	94.2	104.5	107.3	103.1	99.8	[103]	103.5	9.3
ドル バランス (億ドル)	受取		52	29		35		[64]	64	12
	支払		△52	△32		△38		[△70]	△70	△18
	合計		0	上期 △3		下期 △3		[△6]	△6	△6

※旧住金小倉、旧住金直江津、住金鋼鉄和歌山を含む

営業利益増減 (10年度→11年度)

シームレスパイプの価格改善等により、原材料価格高騰等をカバーリカバリープラン含めたコスト改善強化もあり205億円の増益



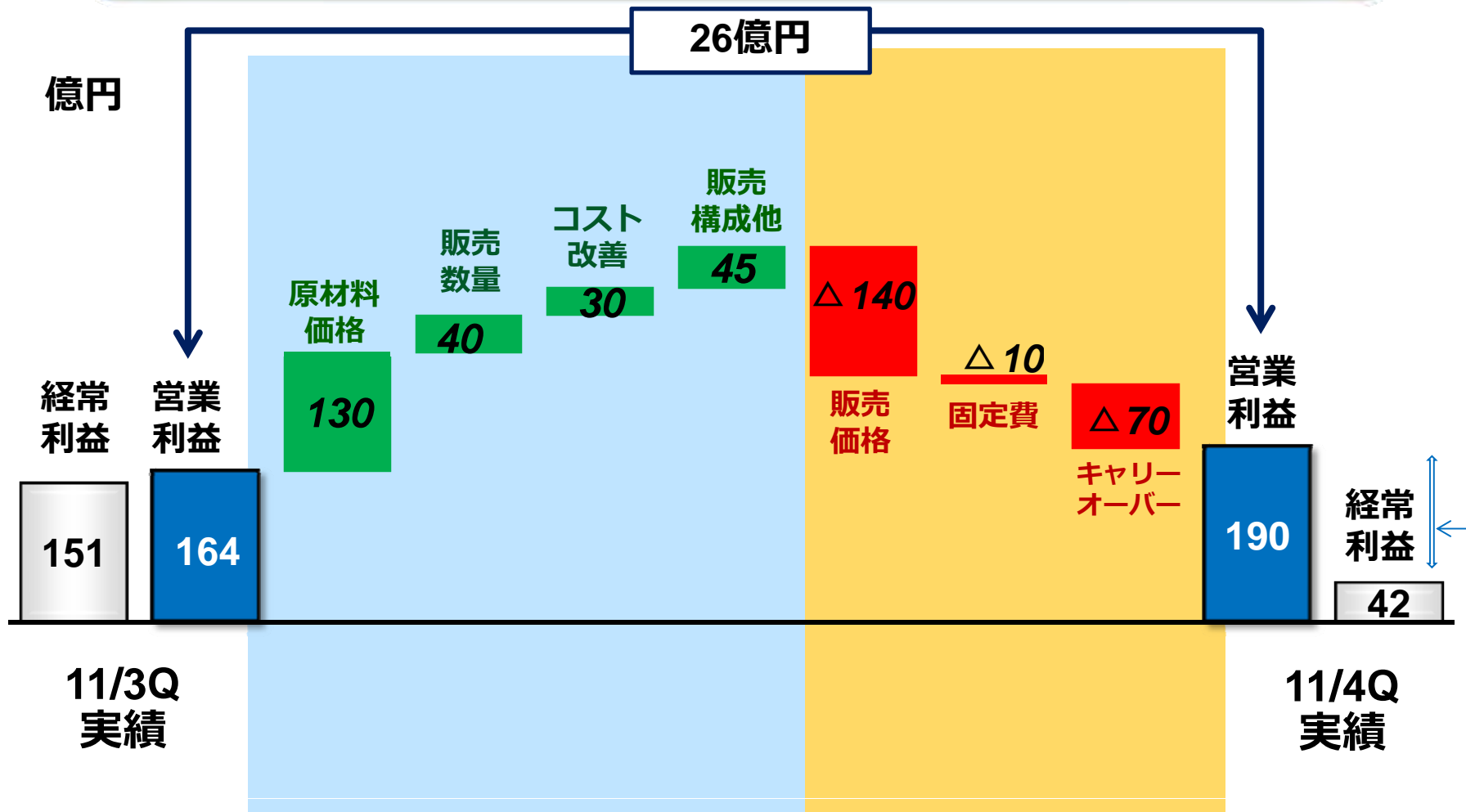
11年度営業利益	
前回見通し	700
実績	768
増減	68

増減要因		
販売構成他	販売数量	原材料
113	△25	△20

●持分法損益 <10年度> △34億円 → <11年度> △64億円

営業利益増減 (11/3Q→11/4Q)

原材料キャリーオーバー影響はあったが、販売数量増や構成改善等により、26億円の増益



●持分法損益 <11/3Q> 30億円 → <11/4Q> △ 174億円

特別損失内訳とリカバリープランの進捗

億円	10年度	[^{2/2} 見込み]	11年度	備考
● 災害による損失	△620	[△153]	△167	震災影響△161億円,タイ洪水影響△5億円
投資有価証券売却損	-	[△19]	△19	NAMISA関連株式売却損
投資有価証券評価損	-	[△886]	△808	株式市場低迷影響
減損損失	-	[△80]	△55	社宅等固定資産の減損
事業再編損	-		△33	グループ会社の事業再編に伴う損失
排出権関連損失	-		△36	排出権の時価下落に伴う損失
特別損失	△620	[△1140]	△1,120	

→ +経常利益影響+復旧設備投資費用 = 震災関連損失 約1,000億円

億円	リカバリー プラン	11年度実績	
		(計画)	
設備投資時期繰延べ等	300	(90)	140
コスト/経費圧縮の上積み	550	(240)	280
10年期末・11中間配当水準	140	(140)	140
固定費他	30超	(30超)	40
税前キャッシュフロー改善計	約1,000	(500超)	約600

12年度は
300億円超を計画

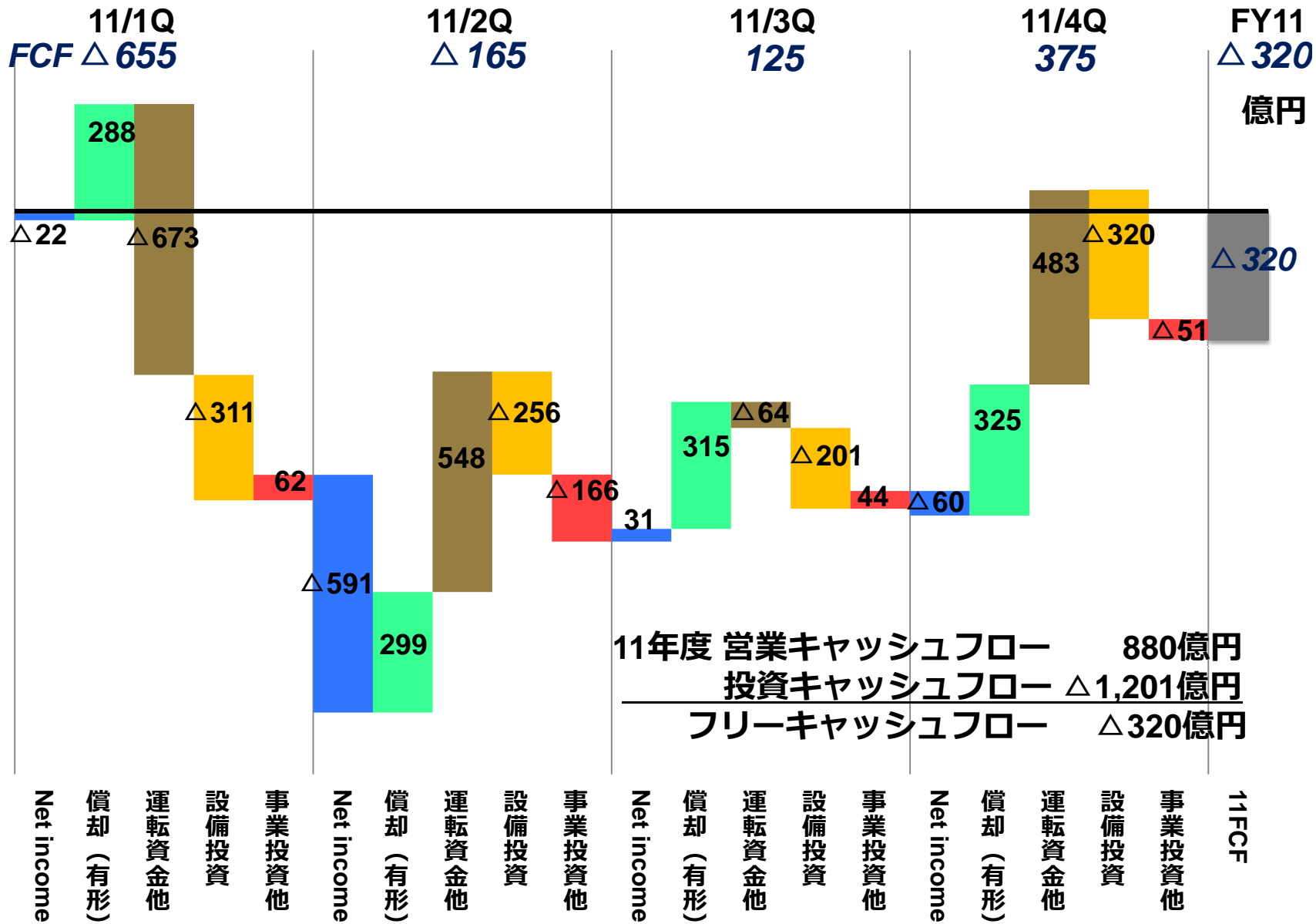
12/3E BS概況

11

億円	11				12	%	11/3E 増減
	3E	6E	9E	12E	3E		
【資産】							
流動資産	6,479	6,328	6,935	7,075	6,580	1.6	101
固定資産	17,928	17,915	17,651	17,387	17,280	△3.6	△647
資産合計	24,407	24,244	24,586	24,462	23,861	△2.2	△546
【負債および純資産】							
流動負債	8,006	7,931	8,304	7,830	6,910	△13.7	△1,095
固定負債	8,220	8,136	8,261	8,993	9,336	13.6	1,115
純資産	8,180	8,176	8,021	7,638	7,614	△6.9	△565
借入残高	11,733	11,974	12,072	12,042	11,721	△0.1	△12
D/Eレシオ	1.53	1.56	1.61	1.69	1.65		0.12

キャッシュフローの状況

Net income: 税前当期利益+法人税等支払額



鋼材品種別販売状況

鋼板・建材

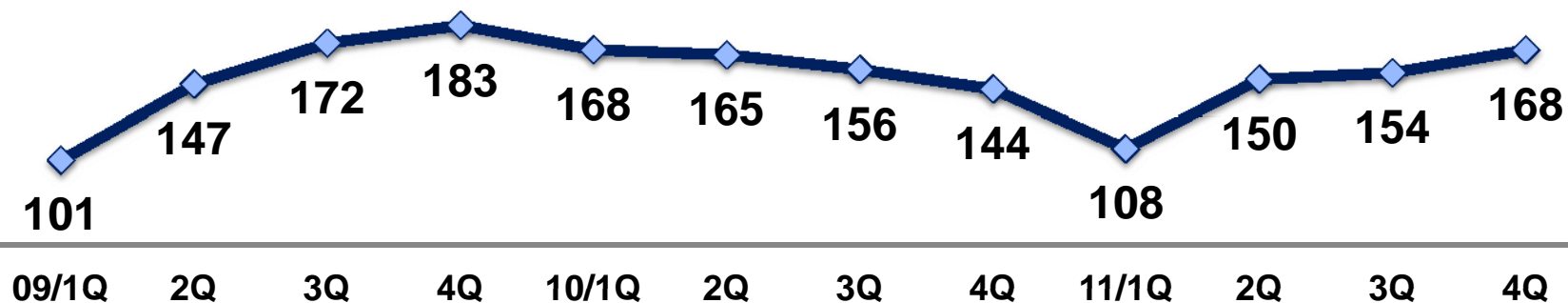
薄板：国内自動車向けは堅調だが、他の分野は減産。

輸出販売は弱含み

厚板：エネルギー向けハイエンド品は堅調。

建材：震災復興需要が茨城地区で本格化。需要見合いの生産。

販売量(万ト)

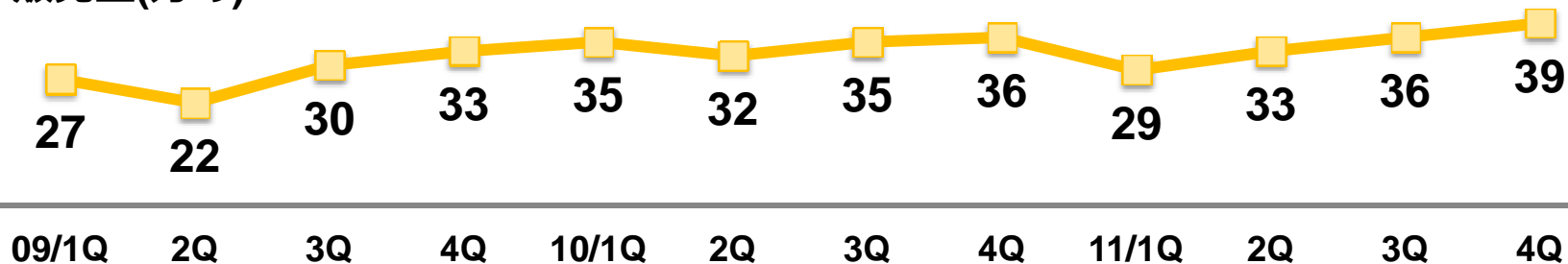


鋼管

シームレス：国内・輸出とも堅調な販売, VSB立上影響で計画比微減

大径管：中東地域での大型案件受注により下期販売は回復

販売量(万ト)

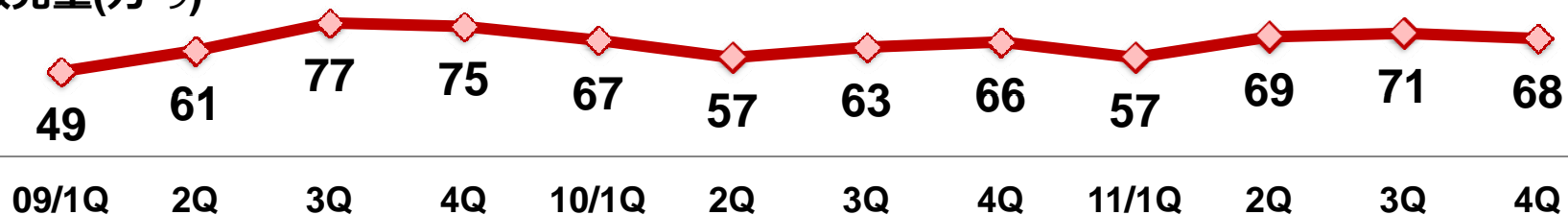


鋼材品種別販売状況

スラブ

上期は震災影響があったが下期は通常ベースの販売に復帰

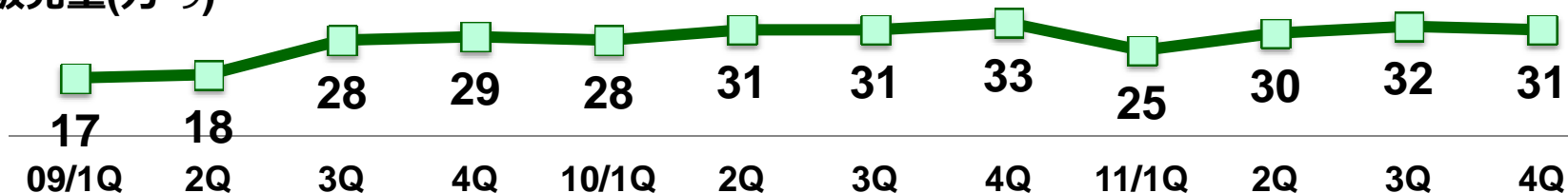
販売量(万ト)



特殊鋼

自動車向けは堅調だが建機向けが減速

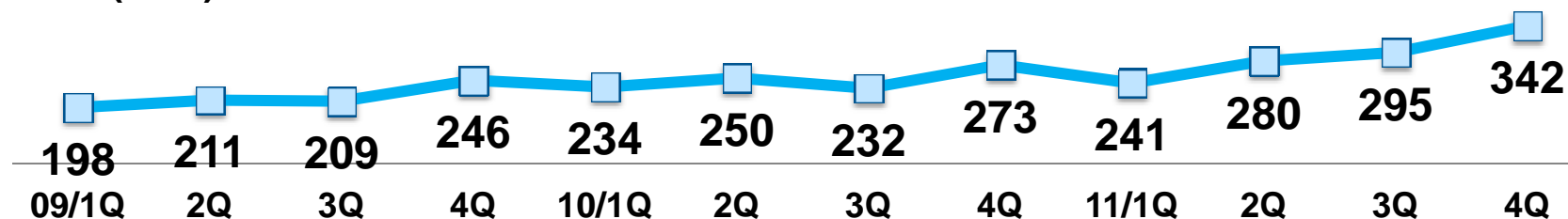
販売量(万ト)



交通産機品

鉄道車両品：内需に加え、米国・欧州・中国向けも堅調に推移
クランクシャフト：自動車生産回復に従い販売増

カンパニー
売上高(億円)



シームレスパイプ^o需要・販売の状況

● OCTG / Line Pipe

- ➔ OCTG長期契約品：中東向け主体に堅調な販売が継続
- ➔ OCTG SPOT品: リグカウントは世界的に高位安定、ハイエンド分野を含め、需要は旺盛。
- ➔ Line Pipe:プロジェクト向け・店売り向けとも需要は堅調

● 特殊管

- ➔ 好調な排熱回収ボイラ向けに加え、超々臨界向ボイラチューブも回復傾向

● 自動車・建機向け

- ➔ 建機向けは、中国需要の減少影響、自動車向けはタイ洪水影響があったが、販売は総じて堅調に推移

リグカウント の状況	06年 平均	07年 平均	08年 平均	09年 平均	10年 平均	11年 平均	直近
米国	1,649	1,768	1,879	1,089	1,546	1,875	(12/4/20) 1,972
深井戸 (15,000ft)	225	222	283	249	249	395	(12/3) 305
北米・露・中 を除く世界	925	1,005	1,079	997	1,094	1,167	(12/3) 1,192

出所: Baker Hughes, Smith international

セグメント・カンパニー別売上高等の状況

セグメント・カンパニー別売上高

億円	10年度					[2/2 見通し]	11年度	年度 増減
		1Q	2Q	3Q	4Q			
鋼板・建材	5,496	1,043	1,494	1,475	1,494	[5,600]	5,507	11
鋼管	5,067	1,223	1,415	1,436	1,509	[5,500]	5,585	517
交通産機品	991	241	280	295	342	[1,150]	1,160	169
棒線*	1,447	323	410	414	378	[1,550]	1,527	80
ステンレスチタン他*	514	140	138	124	148	[550]	552	38
鉄鋼セグメント計	13,516	2,972	3,738	3,748	3,873	[14,400]	14,332	816
その他	508	96	114	88	101	[400]	401	△107
売上高計	14,024	3,068	3,853	3,836	3,974	[14,800]	14,733	709

(参考) 鉄鋼セグメント主要カンパニー営業利益 (概数)

鋼板・建材	160	20	90	40	△10	[200]	140	△20	
鋼管	鋼管	160	70	85	90	105	[290]	350	190
	スラブ	△50	20	△25	△60	△35	[△120]	△100	△50
棒線*	60	0	20	30	30	[80]	80	20	

鉄鋼セグメント計	502	164	227	157	179	[670]	729	226
その他	62	4	16	6	11	[30]	39	△21
営業利益計	563	168	244	164	190	[700]	768	205

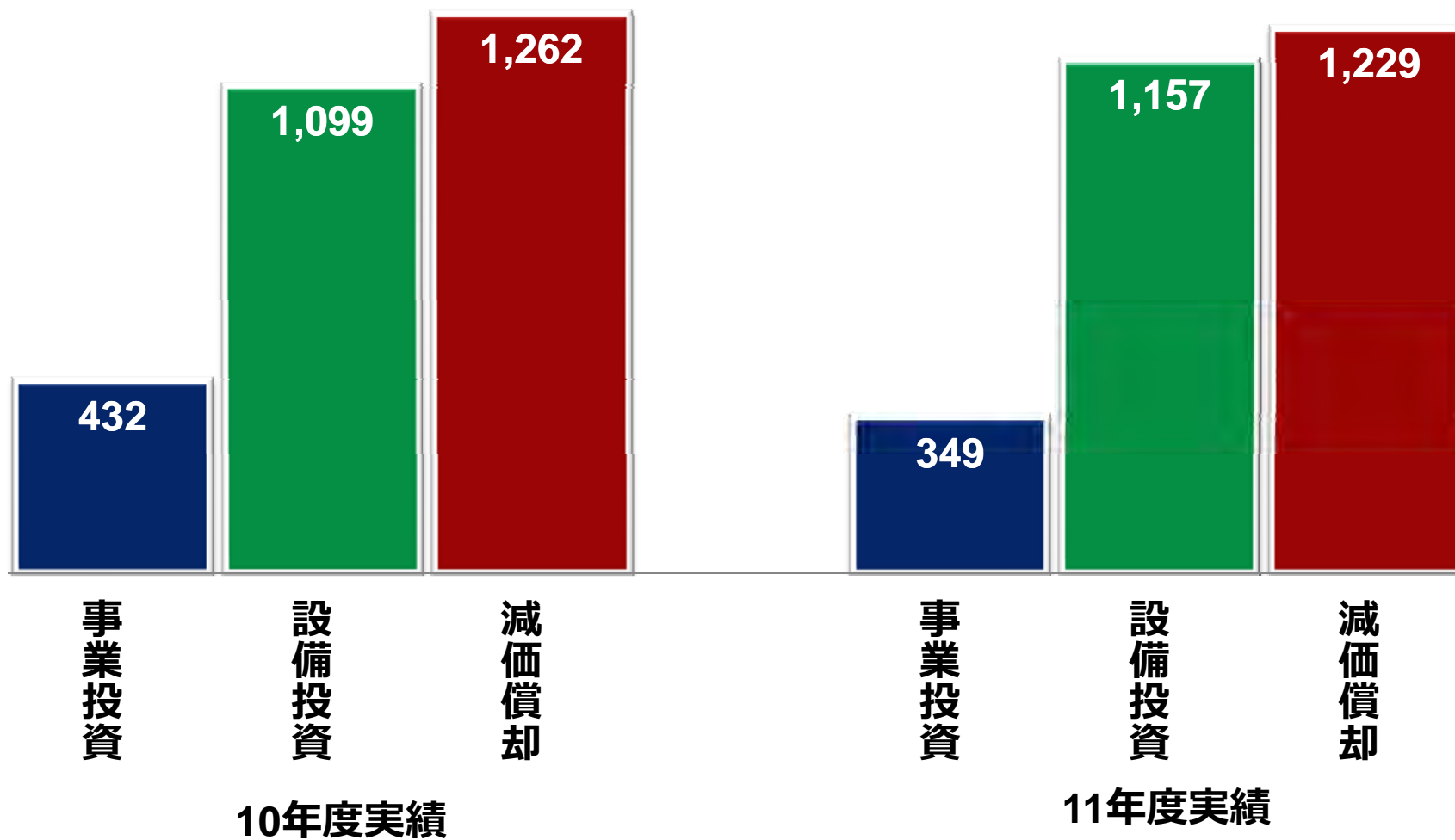
* 棒線: 棒鋼・線材カンパニー、11/3Qまでは旧住友金属小倉(株)のデータを掲載しております。

* ステンレスチタン他: ステンレス・チタン事業本部及びその他の鉄鋼部門、11/3Qまでは旧住友金属直江津(株)及びその他の鉄鋼部門のデータを掲載しております。

事業投資・設備投資・減価償却費の実績

設備投資額は工事ベース,事業投資額は支払いベース,減価償却費は有形固定資産のみ

億円



主要設備投資・事業投資の進捗

※当社は新日本製鐵株式会社と2012年10月1日に合併予定であり、合併後は下記計画の変化もあり得る点に十分ご留意下さい。

稼動予定年月で記載		投資額	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15
設備投資								
鋼管	和歌山上工程更新 新第2高炉+CC増強等	1,150 億円						
	超高強度ラインパイプ増産	100 億円		11/1				
	原子力発電用SG管増産	140 億円				13/4		
その他	住金小倉製鋼プロセス革新	270 億円	10/10					
	総合技術研究所リニューアル機能強化	100 億円		11/10				
事業投資								
鋼板建材	ベトナム薄板JV (CSVC)	1,150 億円 (JV合計額)				12年度		
	インドブーシャン社 PJ	技術援助 OEM				● 12/3		
鋼管	ブラジル高炉一貫 シームレス製鉄所(VSB)	5.4billion BRL (VSB 資本金)						
交通産機	インドクランクシャフト合併 (SMAC) 第二ライン設置	1Rs billion (SMAC投資額)				12/11		
	米国スタンダードスチール買収	325million\$				● 11/6		

利益配分に関する基本方針及び配当

利益配分に関する基本方針

- 「質」と「規模」のバランスの取れた持続的成長を通じて企業価値を最大化
- 事業が生み出すキャッシュは、企業価値を高める投資に充当
- 投資戦略は以下を基準に実施し、その成果を株主の皆様に還元
 - ➡ 差別化の加速に資する投資であること
 - ➡ 資本コストを上回る便益をあげて企業価値向上に貢献すること
- 配当は安定配当を基本とする

財務体質運営指針

- D/Eレシオで 1.0未満を目標として運営

当期（12/3月期）配当

- 2.0円/株（中間配当 1.0円/株, 期末配当 1.0円/株）

次期（13/3月期）配当

- 未定

<参考> 新日鐵住金の配当方針

業績に応じた利益の配分を基本として、企業価値向上に向けた投資等に必要な資金所用、先行きの業績見通し、連結及び単独の財務体質等を勘案しつつ、第2四半期末及び期末の剰余金の配当を実施する方針とします。

「業績に応じた利益配分」の指標としては、連結配当性向年間20%程度を基準とします。

参考資料



新日鉄住金株式会社

- 統合準備作業は順調に進捗
- 合併形態を単純合併から二段階手続き（株式交換→合併）に変更
- 統合準備を一層加速、総力を結集して経営目標の早期実現を目指す
- 統合スケジュールと今後の予定

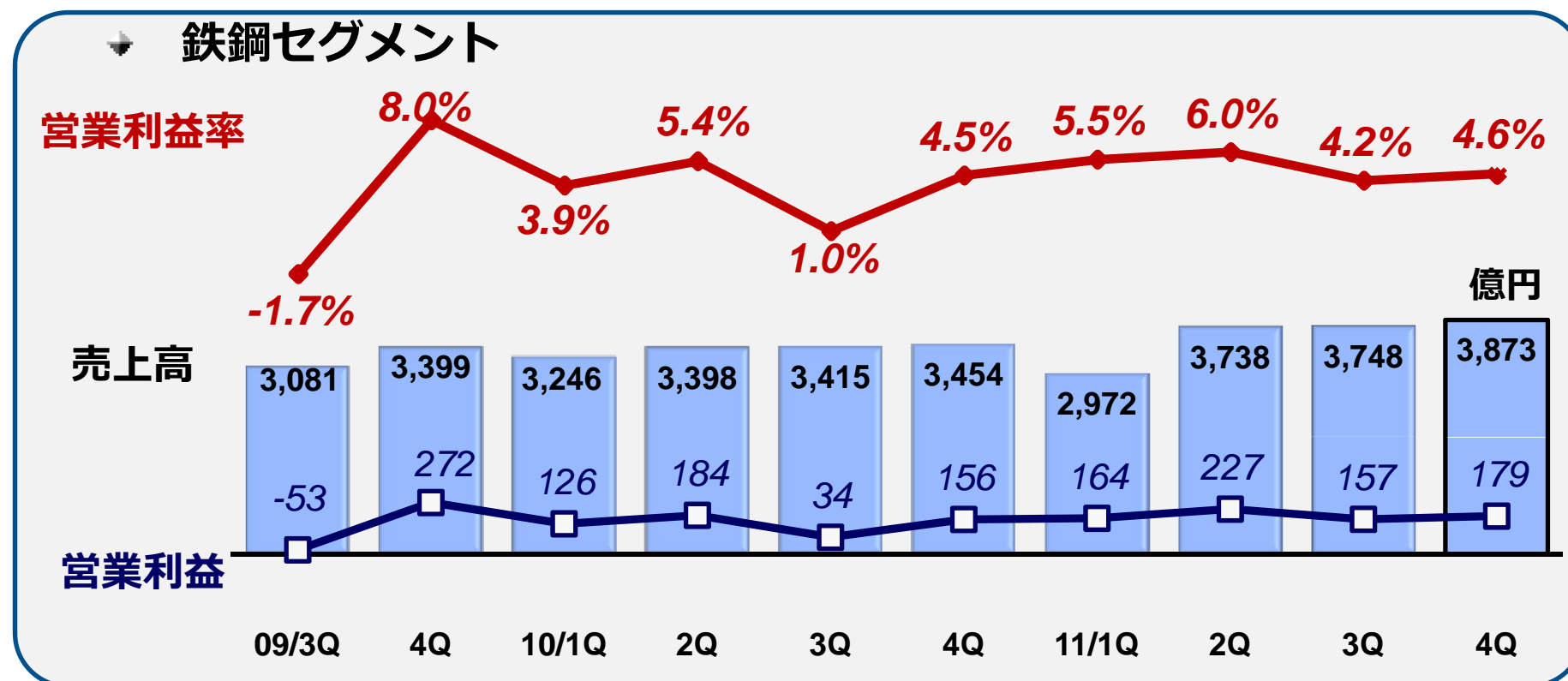
2012年 3月 2日	新日鉄住金 会長・社長人事発表
4月27日	株式交換契約ならびに合併契約締結 新日鉄住金 取締役・監査役人事発表
(以下予定)	
6月26日	両社定時株主総会における統合承認
10月 1日	新日鉄住金株式会社誕生

統合会社の中期経営目標・主要施策方針は、合併後すみやかに公表する予定

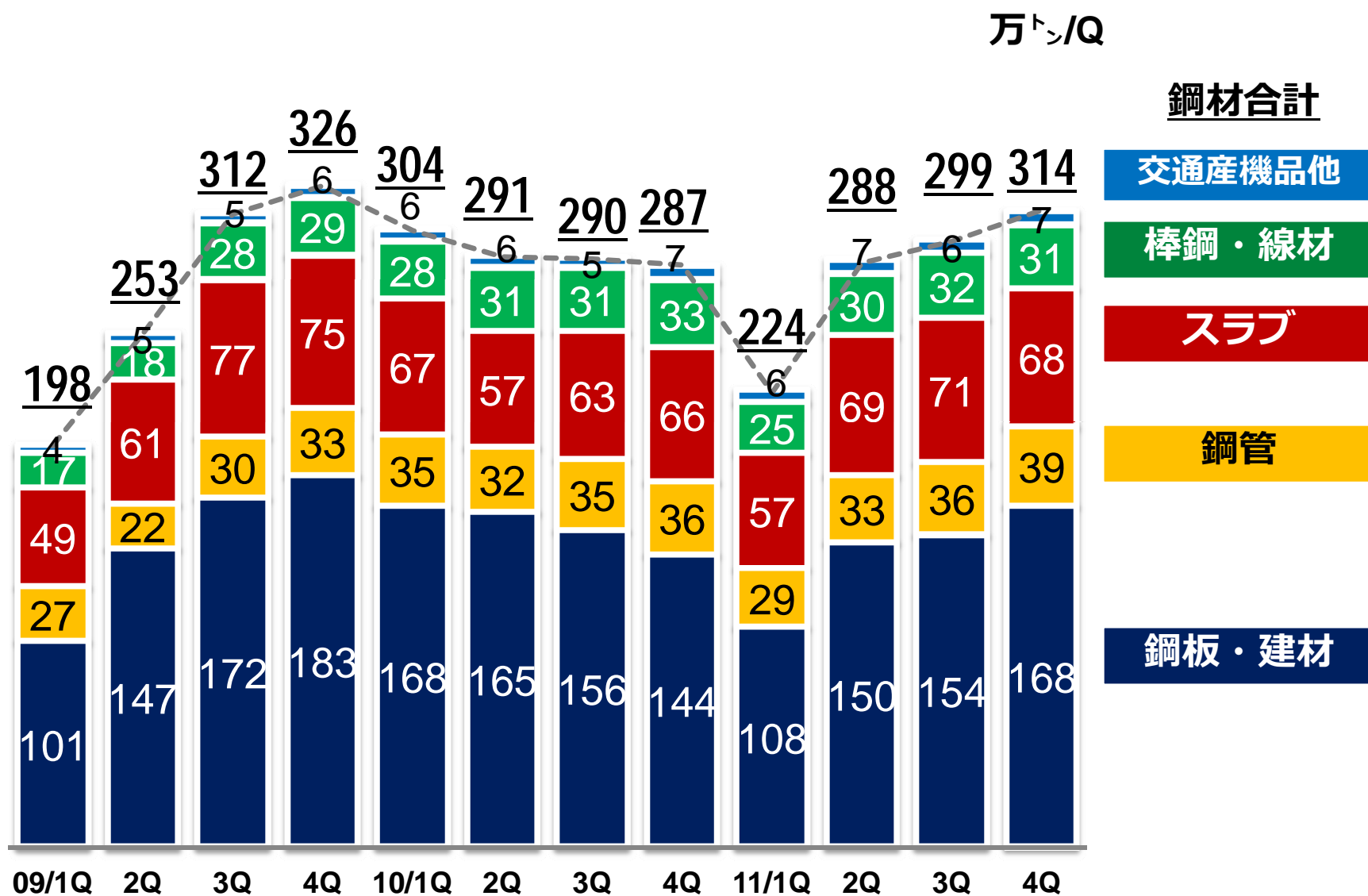
*経営統合の詳細につきましては、4/27リリースの資料等をご参照ください。

セグメント別売上高・営業利益 四半期別推移

億円	09/3Q	4Q	10/1Q	2Q	3Q	4Q	11/1Q	2Q	3Q	4Q
鉄鋼	3,081	3,399	3,246	3,398	3,415	3,454	2,972	3,738	3,748	3,873
その他	178	211	169	122	104	112	96	114	88	101
売上高	3,260	3,610	3,416	3,521	3,519	3,566	3,068	3,853	3,836	3,974
鉄鋼	-53	272	126	184	34	156	164	227	157	179
その他	22	29	16	20	15	8	4	16	6	11
営業利益	-31	302	142	204	49	165	168	244	164	190



鋼材品種別販売量推移

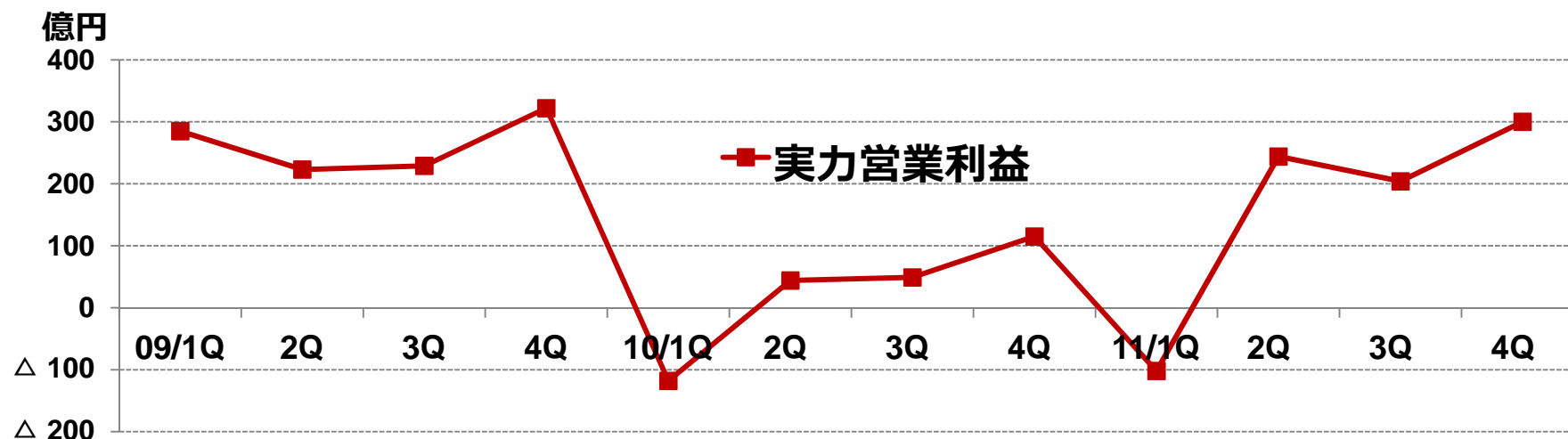


* 棒鋼・線材：11/3Qまでは旧住友金属小倉(株)のデータを掲載しております。

キャリアオーバー等の影響額

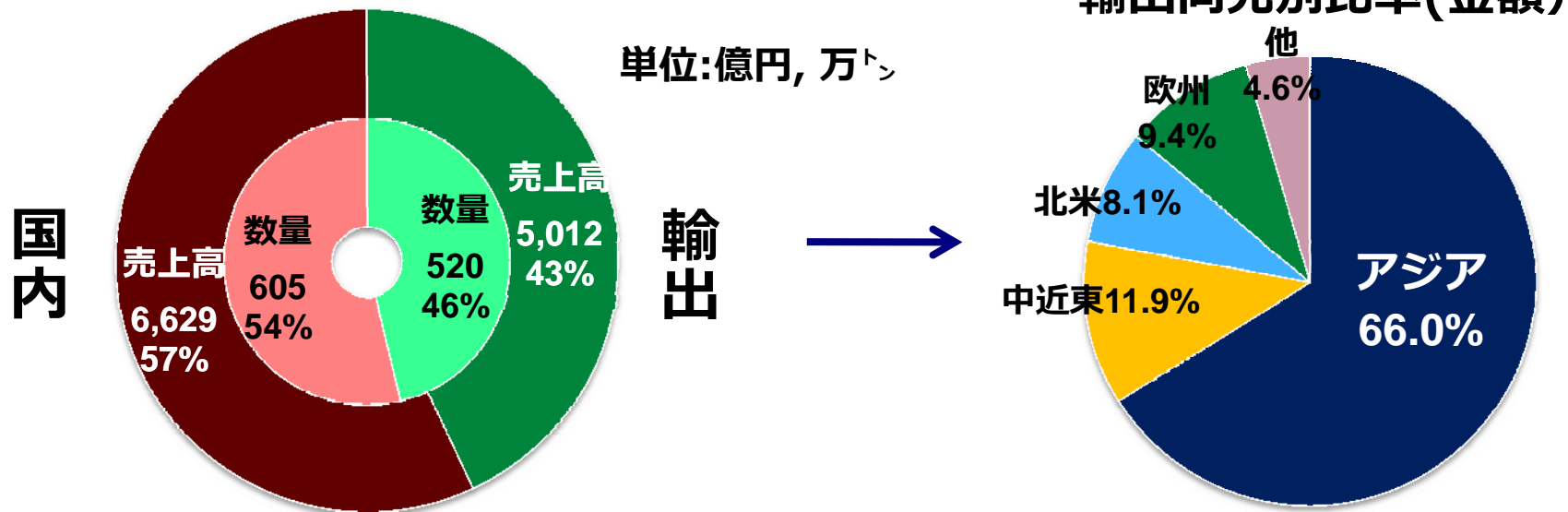
*全て10億円単位概数 24

億円	10年度					11年度	年度増減
		1Q	2Q	3Q	4Q		
キャリアオーバー	250	180	0	△40	△110	30	△220
評価損益計	210	70	20	0	0	90	△120
棚卸簿価(低価法)	10	20	△20	0	0	0	△10
一過性要因計	470	270	0	△40	△110	120	△350

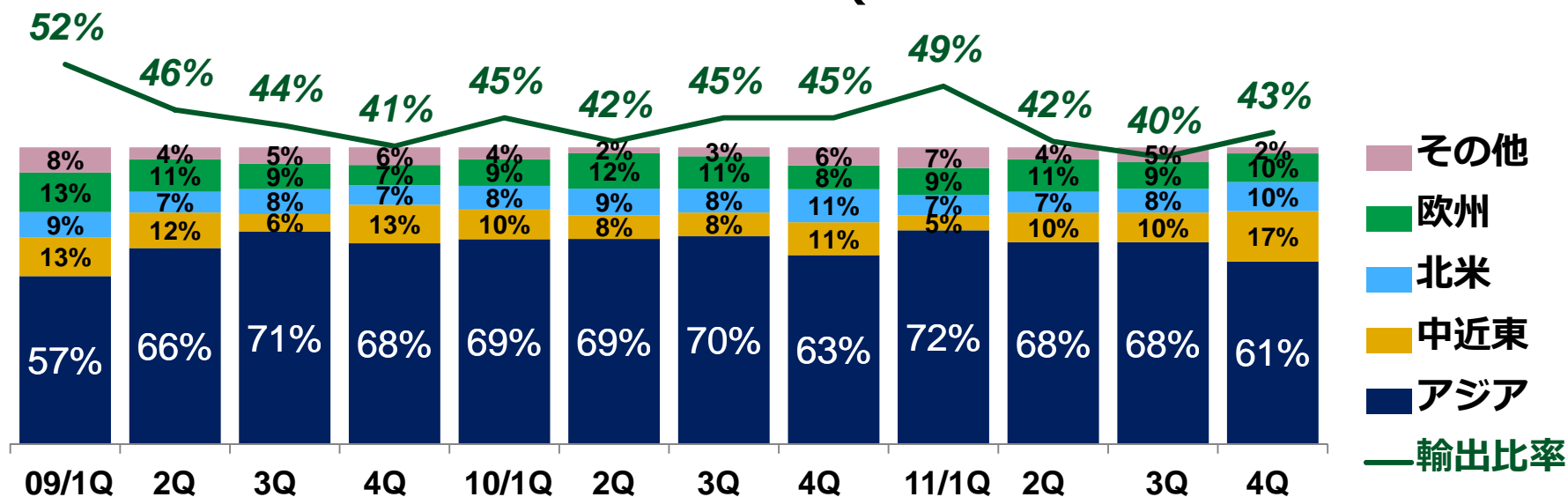


億円	09/1Q	2Q	3Q	4Q	10/1Q	2Q	3Q	4Q	11/1Q	2Q	3Q	4Q
営業利益	△ 345	63	△ 31	302	142	204	49	165	168	244	164	190
一過性	△ 630	△ 160	△ 260	△ 20	260	160	0	50	270	0	△ 40	△ 110
実力営業利益	285	223	229	322	△ 118	44	49	115	△ 102	244	204	300

11年度 鋼材 国内・輸出別売上高

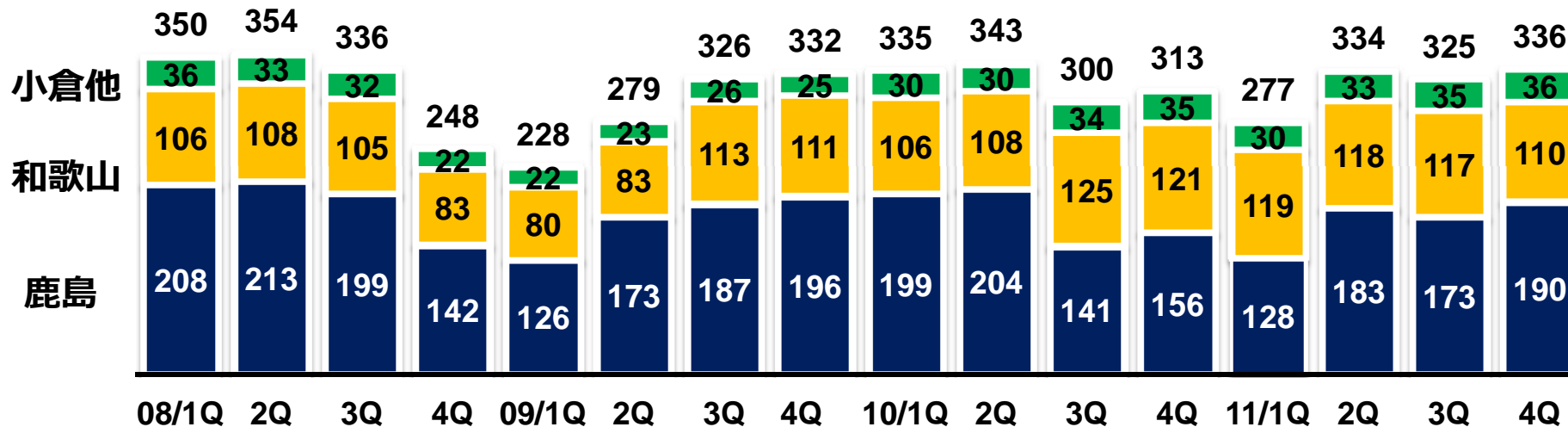


鋼材輸出向先別比率(金額) の推移

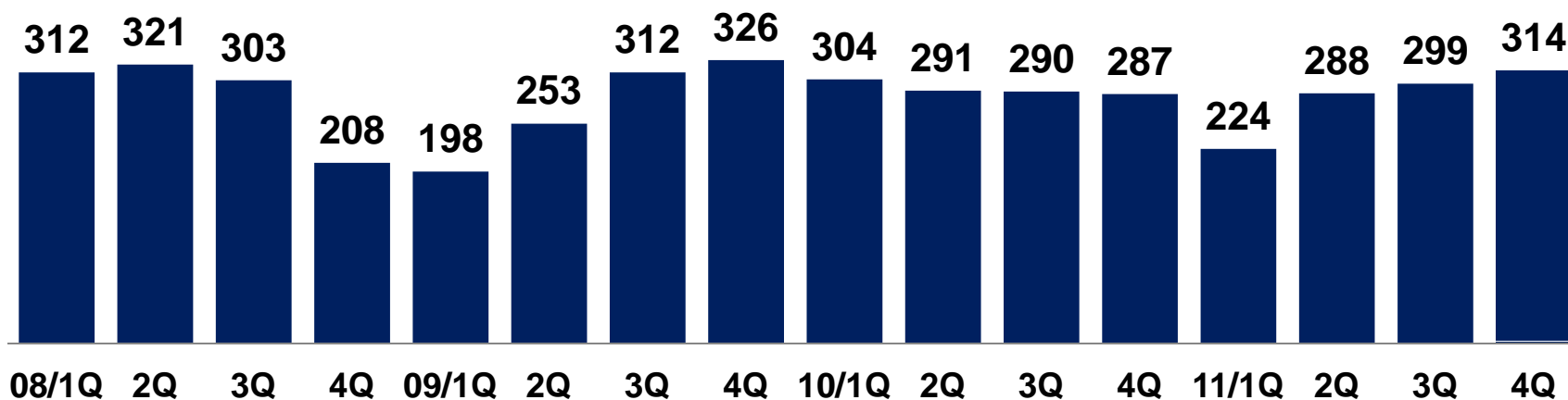


参考数值 (1)

当社粗鋼生産量 万ト/Q



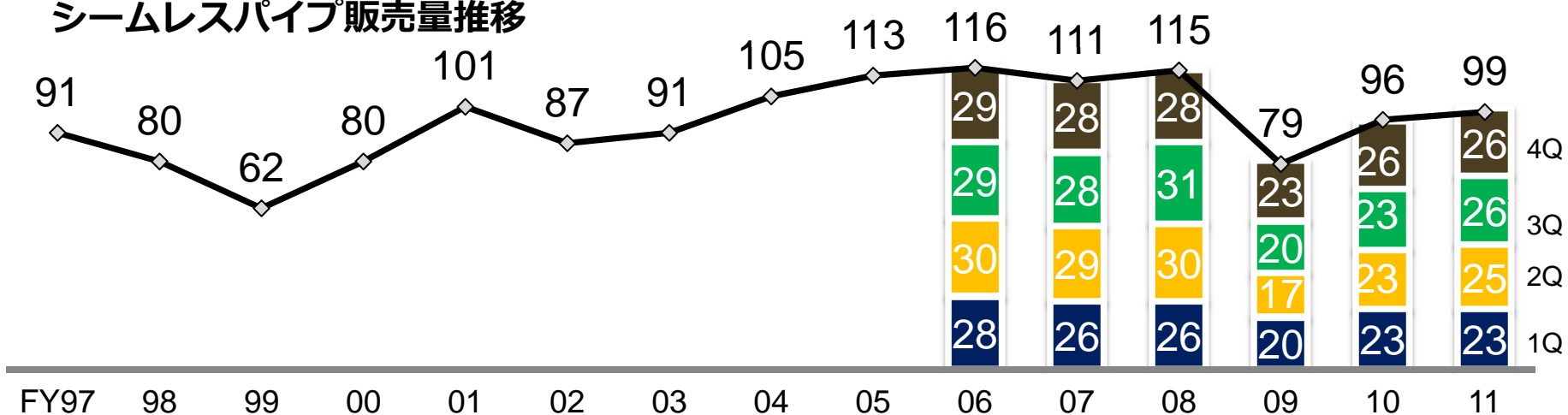
当社鋼材販売量 万ト/Q



参考数値 (2)

万ト

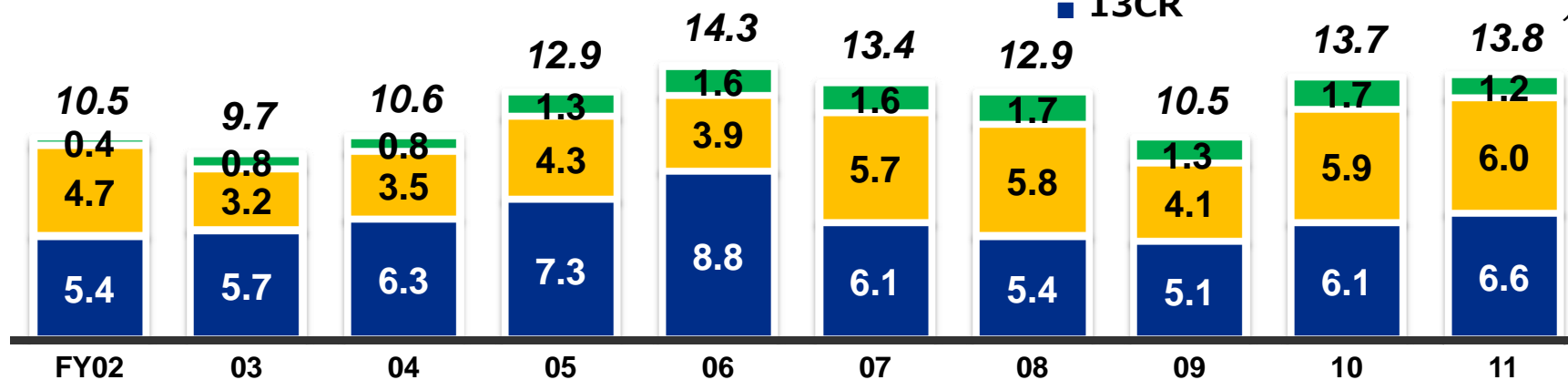
シームレスパイプ販売量推移



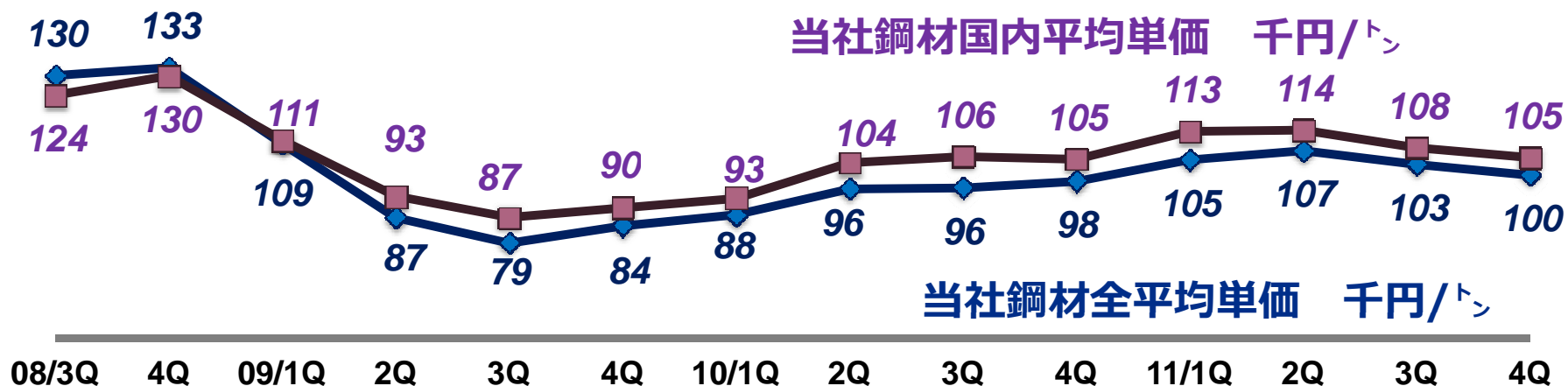
シームレスパイプ スーパーハイエンド品 販売量推移

- 高合金OCTG
- 耐サワー鋼
- 13CR

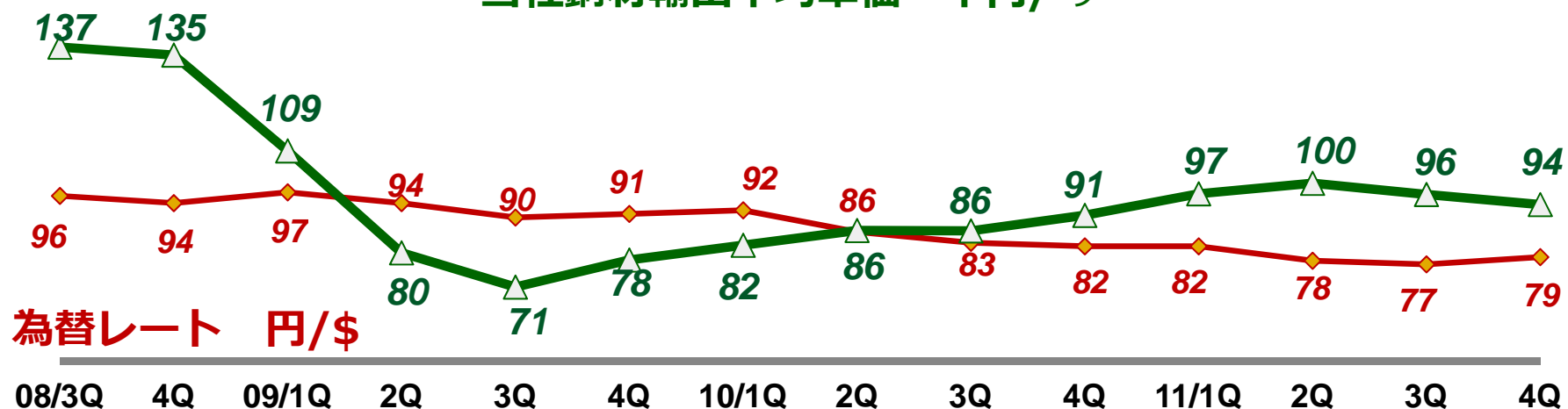
万ト



参考数値 (3)



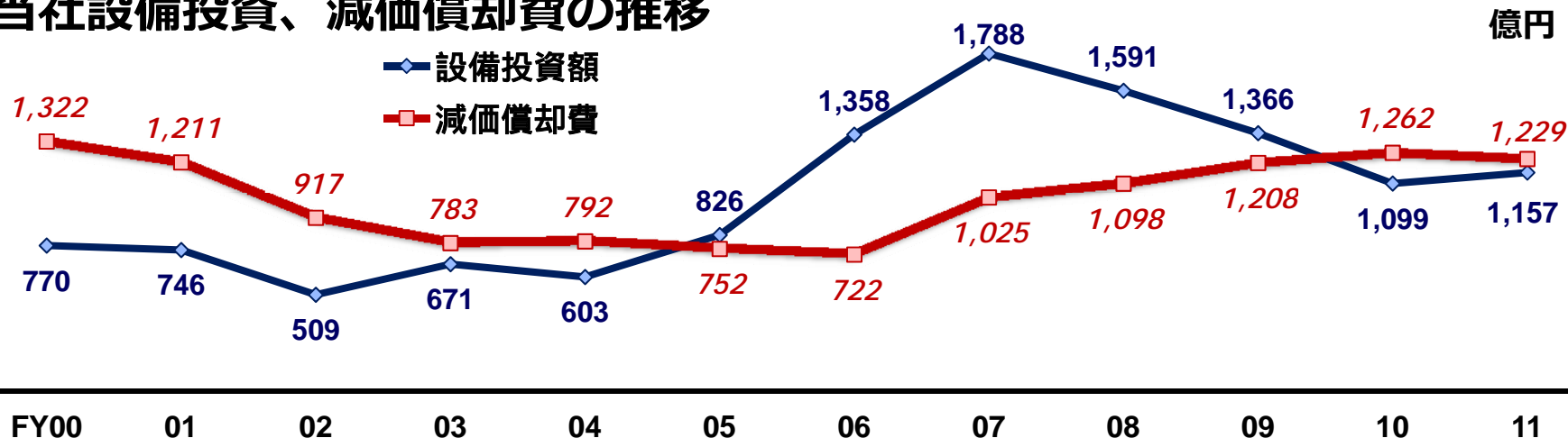
当社鋼材輸出平均単価 千円/トン



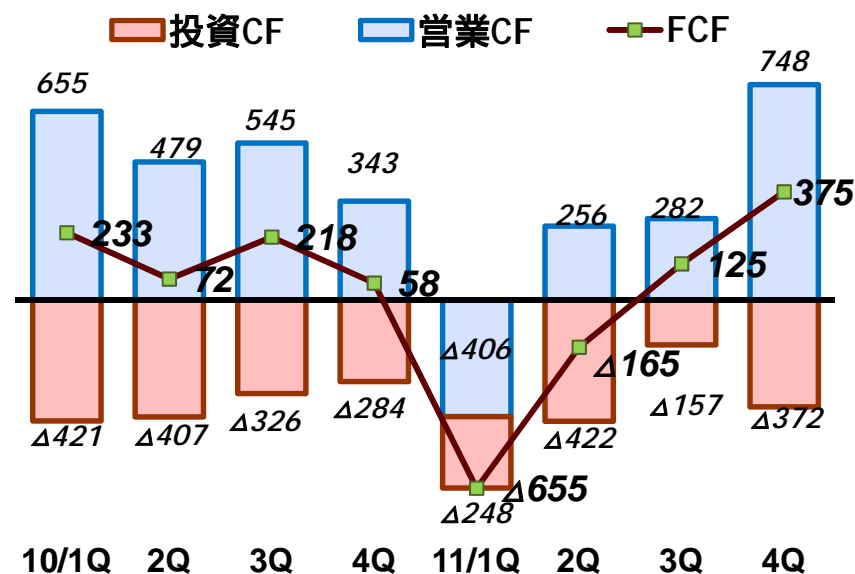
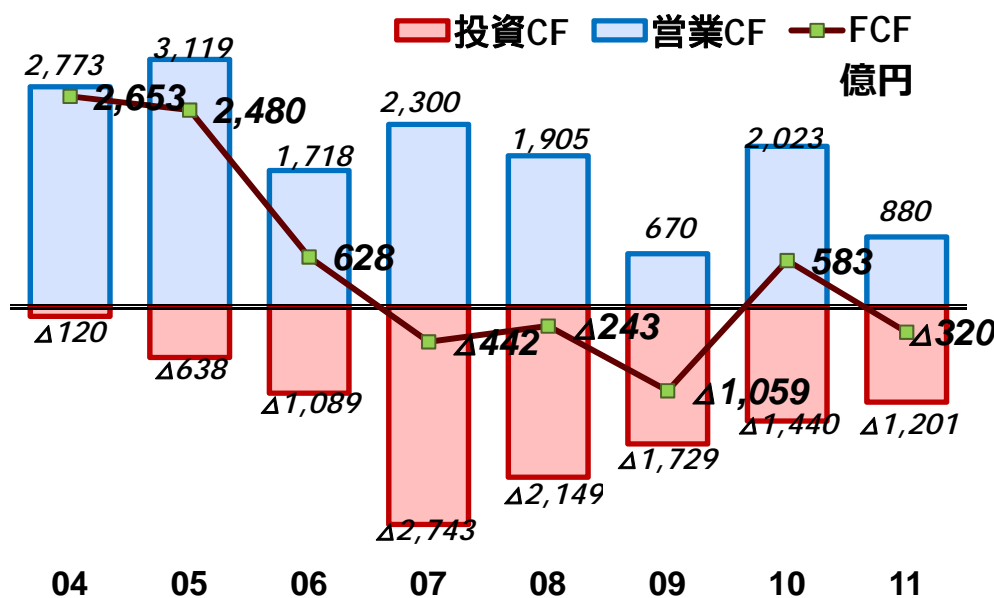
参考数値 (4)

※設備投資は工事ベース 減価償却費は有形固定資産のみ

当社設備投資、減価償却費の推移



フリーキャッシュフローの推移



「質重視」による企業価値の
持続的向上を目指す



ステークホルダーの皆様から
信頼される会社へ